

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

## 土浦平和の会

ニュースNo. 174 2006年11月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

URL [http://www.geocities.jp/ino011\\_jp/](http://www.geocities.jp/ino011_jp/)

## エーツ・自衛隊の主要任務に海外派兵

「防衛省法案」が衆院で審議入りしました。法案は自衛隊の本来任務として「日本防衛」とともに「海外派兵」を付け加えるものです。従来「付随的任務」とされていたPKO法、イラク特措法などに関わって首相の持つ十の権限を新設の防衛大臣に移行するもので、予算要求、執行を財務省に求めることも可能になるというものです。

この要求はアメリカの9・11テロ以来アメリカが求めてきた、米軍と自衛隊の協力強化、一体化の要求に日本政府が追従したものです。2001年10月にはアフガニスタン攻撃を行い、海上自衛隊インド洋派遣をさせ、03年イラク戦争で短期決戦に失敗して泥沼の長期戦に追い込まれているアメリカが、日本の協力が無くては世界支配の戦略を維持できなくなっていることは明らかです。米軍再編の計画の中に日米一体化が盛り込まれ、キャンプ座間に米軍のストライカー旅団の司令部が新設され、陸自の「中央即応集団司令部」が同居するという形で日米一体化は進んでいます。

いま日本がアメリカの世界戦略の重要拠点になり、自衛隊基地をわがもの顔に使用するばかりでなく、防衛大臣の権限で米軍への協力を思いのままにできる体制を作り上げようとしているのです。戦前の軍部暴走の歴史を思い起こすとき、いまこそ立ち上がってこの動きを止めなければ日本は世界中から警戒される危険な国になってしまうのではないのでしょうか。日本はブッシュ政権と心中する道ではなく、アジアの国々、世界の国々とともに歩む道を求めるべきです。

## 国民投票法案も審議入り

今国会は安倍政権の重要政策に掲げる憲法改悪に向けての地ならし法案が次々に審議入りします。衆院憲法調査特別委員会で国民投票法案が審議入りしました。自民、公明、民主各党は「形式的な手続き法づくりにすぎない」といいます。しかし、自公民がいずれも九条を含めた改憲をめざしている中でこの法案の審議に入ることは、国民多数が九条改悪反対の意思を示していることに反して、安倍政権の後押しをすることになります。

自民党の委員長は「この法案を今国会中に成立させたい。」と述べています。安倍首相は「五年以内の改憲」を政権の課題として掲げていますが、改憲への1ステップとなる手続き法案をまず今国会で通そうとしているわけです。

## 中身にも大きな問題がある

「国民の過半数」の基準を「有効投票数の過半数」とするならば、投票率が50パーセント以上の場合でも、有権者の2割台の賛成で改憲案が承認されることになりかねないという問題がおこります。改憲内容を国民に十分周知徹底する時間と手立てを取らないままに国民投票が行なわれた場合は、投票率が低いということも起こりうることです。

公費を使った広報、無料のコマーシャル、新聞広告が所属国会議員数を基礎に配分されるならば、反対意見は著しく不公平に扱われてしまいます。

公務員、教育者が自由に意見を表明する権利を制限されることも大問題です。

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

### 平和の旅 —南房総館山戦跡を訪ねて—

土浦平和委員会では、10月15、16日館山市にある戦跡巡りと南房総の秋を楽しみました。

一行21名は観光バスを仕立て、成田から東関東自動車道、館山自動車道を通って昼前に館山到着。昼食後、館山「NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム」事務所にて、同フォーラムの愛沢理事長、池田さんよりフォーラムの活動、館山に点在する戦跡や『八犬伝』ゆかりの里見氏遺跡などについて講義を受け、地下壕や自然の地形を利用した零戦用えん体壕、本土初の米軍上陸地点などの戦跡を見学しました。南房総は、明治以来、首都東京防衛の要塞として砲台建設や航空隊などが、また、先の太平洋戦争でも本土決戦の特攻基地として多くの軍事秘密施設が設置されたということです。



ああ従軍慰安婦の碑にて

全長1.6kmにおよぶ「赤山地下壕」は本土決戦に備え兵器や燃料貯蔵、野戦病院、兵舎などの施設として掘られとされており、ツルハシの堀跡や通信用電話線、発電機が置かれたと思われる台座が残っていました。「128高知地下壕」の内部には『戦闘指揮所』、『作戦室』と書かれたコンクリート額が当時のまま残されていました。これら地下壕に関する資料が全く不明で当時の証言も少ないということです。

また、昭和40年、牧師深津文男氏が設立した性被害の婦人保護施設「かにた婦人の村」にある『ああ従軍慰安婦』と刻まれた石碑を見学。この石碑は、施設の一寮生が自分は従軍慰安婦であることを牧師に告白、その告白を受け、昭和61年施設内の小高い丘に建てられたものです。石碑からは理不尽な戦争によって、心も身体も踏みにじられた無念の想いが伝わってくるようでした。

戦争を体験した世代が年々少なくなる一方で、憲法9条や教育基本法の改悪、政府高官の靖国参拝の強行、あの侵略戦争を正当化する動きさえある中で、戦争の傷跡とも言える戦争遺跡を保存し、後世に戦争の悲劇、平和の尊さを伝える活動は、反戦平和運動の大切な柱です。ここのNPOフォーラムが高校生や地域住民とともに戦跡の調査・保存の運動を進め、それを生きた教材とし、地域興しや国際交流にまで発展させている活動は立派。

夜は、海が一望できる白浜の南海ホテルで、新鮮な海の幸を味わいつつ交流。

翌日は、絶好の好天に恵まれ、鴨川市郊外にある日本の棚田百景の一つ大山千枚田を、安房小湊では誕生寺見学や鯛の浦遊覧を楽しみ、さらに、帰路、長南町にある国の重要文化財笠森寺を見て無事帰りました。おだやかな秋空のもとに広がる棚田の風景は平和がよく似合いそうです。

私自身南房総には幾度か訪れたことがありましたが、このような多くの生々しい戦跡があることを知りませんでした。学んで、楽しんで、飲んで、食べて、実りある秋のピースツアーでした。(近藤記)

**改憲阻止・新聞意見広告** にご協力ください 12月8日朝日新聞掲載

(賛同費 1口 1,000円 締切り12月7日)

#### 活動ごよみ

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 11・ 2 革新懇世話人会          | 11・14 07年原爆と人間展打ち合わせ |
| 11・ 9 平和の会理事会(保健生協事務所) | 12・ 8 憲法意見広告(朝日新聞)   |